

スクリャーピン ピアノ・ソナタ全集を リリース 「こんなにすごい作曲家は 他にいないと思います」



マリコヴァさんは多忙な演奏活動に加えて、後進の指導、育成にも力を注いでいる。

「ピアノリストとして、演奏活動はずっと続けたい。同時に定期的に行っているマスタークラスでの指導も継続したいと思っています。自分の経験を若い人たちに伝えることは大変おもしろく、楽しいことです。今年

はスクリャーピンの没後100年の年で、いろいろなイベントが予定されていますが、ポーランドのクラコフという街の大学でスクリャーピンのマスタークラスを受け持つ予定です。マスタークラスの受講者は、スクリャーピンのピアノ・ソナタを弾くことになっているので、自分が理解したことを若い人たちに説明することはとてもうれしく、大変楽しみです！」

1993年のミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、1990年ショパン国際ピアノコンクールでも入賞を果たしたウズベキスタン出身のアンナ・マリコヴァさんが昨年11月から12月にかけて来日し、東京、大阪、神戸、新潟、金沢など、全国各地でショパン国際ピアノコンクールiROASIAの地区大会審査とプライベートレッスンを行った。マリコヴァさんはショパンの練習曲、前奏曲、即興曲、ピアノ協奏曲などの各全曲や、シューベルト、リスト、ブラームスなど数多くのCDを録音しており、2006年にはサン・サーンズのピアノ協奏曲全曲録音が「クラシック・インターネット・アワード」を受賞した。ロシア作品としては、

チャイコフスキー、プロコフィエフ、シヨスタコーヴィチなどのCDをリリースしているが、このたび2012年から録音を開始したスクリャーピンの「ピアノ・ソナタ全集」が完成した。

「スクリャーピンほど音楽のスタイルが変化した作曲家はいないでしょう。特に10曲のピアノ・ソナタは、初期の作品はショパンの影響を受けて聴きやすくロマンチックですが、後期の作品は神秘主義的で調性を越えた独創的なスタイルに変わっていきます。第5番以降のソナタは単一楽章で、初めて聴くと全部一緒のように感じるかもしれませんが、それぞれのソナタのキャラクターは全然違っています。普通の作曲家が、構成や形式が複雑で難しいソナ

タを作ろうとすると、モチーフやハーモニーなど、たくさんの素材が必要で、ところがスクリャーピンは4、5つのモチーフだけで考えている構成や形式を完璧に組み立てられる。そして感情や感動やおもしろさがないと思います。私は神や宇宙、神秘的なテーマに興味があり、スクリャーピンはとても好きな作曲家です！」

CDの収録はカワイのドイツの販売拠点、クレフェルトで行われた。使用ピアノはShigeru Kawar. スクリャーピンの音楽をよく理解しているディレクターと、サウンドエンジニア、調律師のチームで、とても満足いく収録ができたと話す。



スクリャーピン ピアノ・ソナタ全集
ACOUSANCE ACO-12214 輸入盤
[曲目] スクリャーピン：ソナタ第1番、
第2番《幻想》、第3番、第4番
第5番、第6番、第7番、第8番
第9番《黒ミサ》、第10番